

湖西市津波防災地域づくり推進計画 第2回意見交換会 (浸水区域内)

～ 地域で安全な未来をつくる会 ～

開催報告

日時：令和5年7月9日(日) 9時30分～

場所：南部構造改善センター 多目的ホール

<次第>

1. 開 会
2. 挨拶
3. 第1回意見交換会の振り返り
 - ・湖西市の災害リスク
 - ・災害時の行動
 - ・第1回意見交換会及び沿岸域説明会におけるご意見
4. 意見交換
テーマ「地域の課題と目指すべき姿」
5. 総 括
静岡大学 防災総合センター 原田賢治 准教授
6. 閉 会

<意見交換会の様子>



＜意見交換会における意見概要＞

「逃げる」に関する課題・不安に思うこと

- 避難行動について、避難場所としては整備されているが、海方向への避難になること、徒歩避難時における安全確保、近所の人（要配慮者の有無含む）の把握ができていないこと、要配慮者と一緒に避難することに対する課題がある。
- 避難経路について、浸水区域内では川や水路に囲まれる地域が多く、避難する際に落橋により通行できなくなる可能性があること、土砂災害（がけ崩れ等）や国道1号バイパスのトンネルからの津波の浸水が不安。
- 避難経路上の耐震性強化、避難所の受け入れ体制の構築、命山の設備、避難時のルールづくり等が必要。

「土地利用」に関する課題・不安に思うこと

- 新しい商業施設（イオン新居）ができたことによる人口流入で、避難施設が不足する可能性がある。
- 川に囲まれている地域では落橋等による交通ネットワークの寸断や津波の逆流による浸水被害や、市街地は古い建物が多いため火災が心配。
- 土地利用の観点から、居住地を標高の高い場所に移転することや、浸水区域内で行われる土地の開発を検討すべき。
- 安心して住みやすい地域づくりとして、地震が起きる前から震災後も続けられる総合的なまちづくりを検討することが必要。

「守る」に関する課題・不安に思うこと

- 命を守ることができるような防潮堤を造っていくことが必要である。
- 防潮堤を造るにあたり、海岸の利用者や景観、周辺に住む生物に対する配慮が必要。
- 水門の操作方法の共有等、日頃から準備することが必要。

「今後目指すべき姿」

- まずは命を守り、全ての人が逃げられるようにする。逃げ遅れによる犠牲者をなくす。
- 住民一人ひとりが意識を高め、学生を含む地域で共助力を向上する。そのため、近所付き合いを増やす、防災教育を充実させていく。
- 市街地では倒壊等のリスクを低減するため、空間的に余裕のあるまちづくりをする。
- 防潮堤等のハード整備により安全な市街地をつくり、整備を検討する際には自然の保護も考慮する。